

回答については、質問時の基準に沿って回答しておりますので、現時点とは異なっている場合もございます。

Q30（百日咳）

当院では、診断法として、凝集素値で、東浜株と山口株の値を測定しております。

1. 日本小児科学会HPで、香川大学の集団発生例で単一血清の場合、山口株が40倍以上の時陽性としたとの記載がありました。40×以上だとかなりの頻度で陽性になってしまうようで、これらの方法で行う場合、この値で宜しいものかどうか、
2. 2006年の診断基準案で、DTP接種者または不明者（子供）では単血清で山口株320×または凝集原を含まないDTPワクチン接種者では10x以上で陽性、とありますが、単一血清がこれより高値でも、ペア血清が変化無ければ、治療を要する百日咳感染ではないと診断してよいのか、
3. 現在単一血清の診断基準が判然としない、との記載がありましたが、成人の百日咳も、上記小児の診断基準と同じ値で診断してよいのか、

A30

DTPワクチン未接種児では、ペア血清で凝集素価の陽転または4倍以上の上昇が基本です。ただ現在のわが国では、1回以上のワクチン接種率は95%以上で、多くの検査対象者が1回以上ワクチン接種を受けているものと推測されます。

血清診断の基本はペア血清での4倍以上の上昇ですが、単血清での目安を各方面から求められその当時までの知見で示してきました。それらが、ご質問の1や2での単血清での基準です。

最近、健康成人でも凝集素価が高い方が多くいるとの成績が公表され、成人やワクチン接種児に関しては、単血清では確定診断が難しいと考えられるようになりました。

「単血清では確定診断はできない。ペア血清で東浜株and/or 山口株の4倍以上の上昇を確認する」と明記しようと考え、現在、関連学会や研究班および感染研と協議中です。

質問いただきました先生のご指摘の通り、「単血清では急性感染の確定はできない」と考えられます。

3では、小児でもDTPワクチン未接種児以外では成人と同じ基準と考えております。